

10周年記念

全日畜10年のあゆみ

(思い出のスナップ写真)

平成31年2月

全 日 畜

(一般社団法人 全日本畜産経営者協会)

ごあいさつ

私たち、畜種横断の畜産経営者の団体「全日畜」は、平成21年3月に、協同組合日本飼料工業会様をはじめ多くの方のご支援をいただき、組織の設立登記をして一般社団法人としてスタートしました。

お陰様で、早いもので10年の節目を迎えました。まだまだ、盤石な組織確立には至っておりませんが、世の中が大きな変化を来している時代こそ、日本の畜産業を守り発展させるためには畜産経営者が連携して協力し合って進んでいくことが大切だと痛感しております。今後とも引き続き暖かいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

10周年を迎えるに当たり、写真等で10年を振り返る記念誌「全日畜10年のあゆみ」を作成しました。どうぞ、懐かしい時代を思い起こしていただき、また新たな明日への活力を得ていただけたら幸いです。

一般社団法人 全日本畜産経営者協会
(全日畜)
理事長 金子春雄

(1) 全日畜の沿革等

(組織変遷)

- 平成 21 年 3 月 3 名の設立発起人で一般社団法人 全日本畜産振興事業中央会
(略称 全日畜) を設立し、3月に設立登記(全日畜が誕生)
- 平成 21 年度 理事 3 名、社員 20 名の組織体制が確立。
- 平成 22 年度 全国 6 地域(北海道、東北、関東甲越、中部、関西、九州)に
地域全日畜、6 県(青森県、岩手県、千葉県、愛知県、兵庫県、
鹿児島県)に県全日畜が全日畜の関連団体(任意団体)として
設立
- 平成 25 年 5 月 山口県で、既存の任意団体(畜産生産者の団体)を発展的に改
組し、山口県全日畜を設立
- 平成 27 年 5 月 第 7 回定時社員総会で、定款を変更し、一般社団法人全日本畜
産経営者協会(略称 全日畜)に名称変更。併せて理事 7 名体制
に変更し、独自に事務局を開設して現在に至る

(現職 第 5 期の全日畜役員)



布施 久 監事 引地和明 監事 下山正大 理事

松永直行 理事 金子春雄 理事長 佐々木春男 理事 山田哲郎 理事

(ほかに 鶴藺眞佐彦 理事 安井 護 理事)

(2) 全日畜の歴代理事長のみなさん

全日畜の設立発起人3氏

- (左) 西原 登 氏
[宮崎県：養豚]
(中央) 森 志郎 氏
(初代理事長) [福島県：養豚]
(右) 安部正昭 氏
[静岡県：肉用鶏]



第2代理事長

- 西 原 登 氏
[鹿児島県：養豚]



第3代理事長

- 青 野 正 宣 氏
[青森県：採卵鶏]



第4代理事長

- 伊 藤 富 治 氏
[千葉県：酪農]



(3) 全日畜の最高議決機関が「定時社員総会」

全国の社員（代議員）を招集して開催する定時社員総会、いつも熱心な審議が続きました。

（会場は南青山会館）



第3回の定時社員総会では、東日本大震災の被災地を代表して、3氏からその後の復興の様子を報告いただいた。

岩手県 高橋靖忠 氏（写真）

青森県 青野正宣 氏

福島県 三品清重 氏

（H23-05-23）

全日本畜産振興事業中央会定時社員総会 （全日畜）



第5回の定時社員総会の頃は、毎年国が措置する畜産振興事業への参加が審議の課題となっていました。

（H25-05-29）



商系の畜産経営者の連携を訴える
西原理事長。（写真上）



全日畜の諸活動には常に日本飼料工業会のあたたかい支援がありました。

写真は平野専務理事と全日畜の役員のみなさん。

(H26-05-26)



全日畜誕生から5年を迎えた第6回定時社員総会では、総会終了後に関係者で節目をお祝いしました。ホルスタインの着ぐるみスタイルで歌う可愛いミュージシャンも花を添えてくれました。

(H26-05-26)



大きな組織課題を乗り越えて開催した第9回定時社員総会で、丁寧に経過報告を行う伊藤理事長。

(H29-06-15)

会場はアジュール竹芝



(4) 地域全日畜や県全日畜も誕生しました

北海道全日畜

平成 22 年 4 月 13 日に設立総会を開催し、初代会長に南雲啓一氏が就任（写真）



東北全日畜・青森県全日畜

平成 22 年 3 月 4 日、二団体が設立、初代会長に青野正宣氏が就任、設立を記念して農林水産大臣賞を受賞した金子ファームの金子代表が講演



岩手県全日畜

平成 23 年 1 月 21 日、岩手県全日畜が設立、初代会長に高橋靖忠氏が就任、東北で青森県全日畜に次ぐ県組織が誕生



関東甲越全日畜・千葉県全日畜

平成 22 年 10 月 29 日、二団体が設立、初代会長に伊藤富治氏が就任、設立発起人が勢ぞろい（管内の基金協会・飼料荷受組合等）



中部全日畜・愛知県全日畜

平成 22 年 4 月 27 日、二団体が設立、初代会長に石川安俊氏が就任、写真は祝賀会で組織を代表して挨拶する石川会長



関西全日畜・兵庫県全日畜

平成 22 年 4 月 27 日、二団体が設立、初代会長に細見茂文氏が就任、補助事業への取組みに期待が寄せられた



九州全日畜・鹿児島県全日畜

平成 22 年 5 月 19 日、二団体が設立、初代会長に西原登氏が就任、県議会・県庁幹部など大勢のみなさんがお祝いにお出席



山口県全日畜

平成 25 年 5 月 21 日、既存の協議会を発展的に改組し山口県全日畜が誕生、リース方式の畜産機械の導入等に期待が寄せられた



(5) 東京電力の原発事故に起因した風評被害対策活動

① 現地調査

H23年3月11日に発生した東日本大震災がもたらした東京電力の原発事故の被害は畜産現場に大きな影響を与えた、全日畜は10月22日、福島県飯館村、南相馬市の畜産現場を視察調査



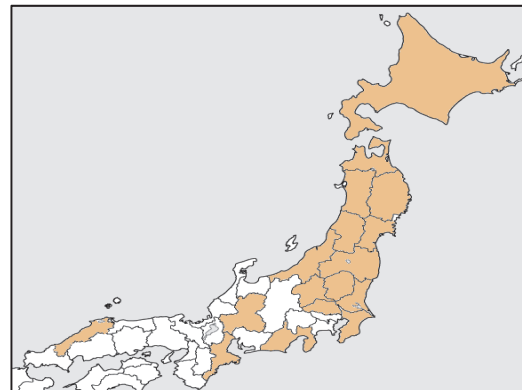
② 損害賠償請求情報交換会

汚染稲わらの影響圏 17 道県の商系関係者で構成する「情報交換会」がスタート、初回は議論が深夜に及びました

(H23-10-21 福島県土湯温泉にて)



地図上の着色 17 道県が放射性セシウム汚染稲わらを給与した都道府県として東京電力への損害賠償請求の対象となり、各道県は情報交換会の指導の下で損害賠償請求を開始



第2回情報交換会では、家畜評価の算定方式等について検討し、17 道県の損害賠償請求資料を持ち寄り、算定方式の是正を図った

(H23-12-16 宮城県仙台市にて)



③ 東京電力本社への要請活動

賠償金の支払い遅延を憂慮して、東電
本社への要請を決定

要請前日に全国から参集した要請団に
よる打合せは重い雰囲気の中で開催



廣瀬常務（後の東電社長）が応対
（第1回要請 H23-10-22、青野理事から）



石崎副社長が応対
（第2回要請 H24-11-29、西原理事長から）



東電本社ビルで生産現場の実情を訴えた

④ 生産物の安全・安心活動（風評被害に負けない）



（畜産フードフェアで H25-10-12）



（青森県内のスーパーで H24-03-20）

(6) 被災した東北地方に配合飼料の緊急運搬事業が発動

① 事業が創設された背景等

◎平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災について、農林水産省は被災した飼料団地の復旧を急ぐ一方で、生産能力が回復するまでの緊急措置として、他地域から東北地方への配合飼料の緊急運搬事業（配合飼料緊急運搬事業 [alic 事業]）を措置した。

◎関係者は、組織を創設した早々から畜産振興事業（農業機械等のリース事業）に参加し、ノウハウを蓄積している全日畜を、事業実施団体として申請することとした。



② 配合飼料緊急運搬事業（alic 事業）

◎全日畜が実施した事業の概要

- ・事業名 平成 22 年度 配合飼料緊急運搬事業（alic 事業）
- ・事業概要
 - 期間 H23-3-11 から H23-3-31 まで
 - 実績 事業に参加した配合飼料会社・・・13 社
 - 運搬した配合飼料・・・・・・・・約 67 千トン
 - 助成額（補助額）・・・・・・・・約 384 百万円
- ・事業成果 北海道、関東、東海、瀬戸内及び九州の配合飼料工場から、北海道、北東北、南東北へ配合飼料を緊急運搬し、配合飼料の安定供給を図ることができた。

(7) 組織誕生3ヶ月後にはalicのリース事業に参加

① リース事業の実績

全日畜は、国が平成21年度補正予算で措置した（独）農畜産業振興機構（alic）のリース事業に応募し、その後も事業が措置される都度事業に参加しました。

◎ H21年度補正リース事業	33都道府県の148戸が受益	補助額約	3.8億円
◎ H24年度補正リース事業	29都道府県の280戸が受益	補助額約	9.6億円
◎ H25年度補正リース事業	39都道府県の280戸が受益	補助額約	9.6億円
◎ H26年度補正リース事業	39都道府県の445戸が受益	補助額約	21.58億円

② 全日畜のリース事業の手順

事業主体に認定されると、全国で事業参加の関係者を招集して「リース事業説明会」を開催します。



事業参加を希望する生産者から提出された申請書類は、事務局で慎重に書類審査を実施し、スピーディーに手続きします。



全日畜からの貸付決定を受理した生産者は、リース会社とのリース契約の締結を行います。



③ 嬉しい機械導入の瞬間（導入検収）

◎ 待望の機械導入の瞬間



防災用の自家発電機の導入



ホイールローダーの導入



多目的梱包車の導入



堆肥散布車の導入

④ 配合飼料工場も事業対象に

◎ 国が飼料用米推進政策を打ち出したタイミングでは、配合飼料製造工場も機械リース事業の対象になりました。



配合飼料工場にも全日畜リースが



工場内に導入された粉碎機

(8) 地域の課題をテーマに全国各地でブロック会議を開催

家畜改良センター十勝牧場を視察

(北海道・帯広)

(H24-09-14)



養豚生産者の六次産業を視察

(千葉県)

(H24-07-12)



養豚生産農場の防疫体制を視察

(鹿児島県)

(H24-10-12)



WCS 圃場を視察

(千葉県)

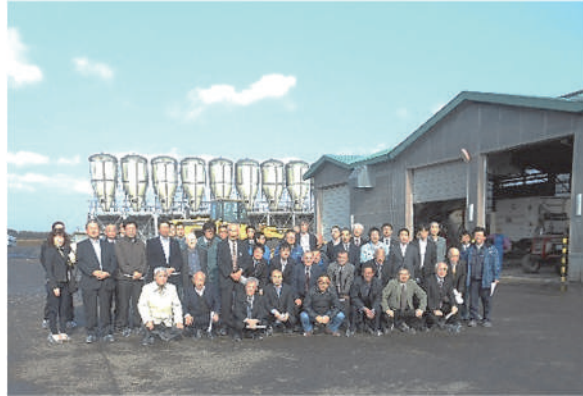
(H25-09-25)



超大規模な TMR センターを視察

(北海道・中標津)

(H25-10-21)



肉牛の六次化はレストランまで

(山口県・萩市)

(H25-11-06)



飼料の流通はグレンターミナルから

(青森県・八戸港)

(H25-09--11-06)



黒毛和牛の産地でセリ市場を視察

(鹿児島県)

(H24-10--12)



(9) 地域全日畜等と連携してセミナーや講演会を開催

全日畜のセミナーは
南青山会館にお世話になりました

[H24 年度：都内港区]



関東甲越全日畜のセミナーは
生産者もパネラーを務めるスタイル

[H25 年度：千葉県成田市]



東北全日畜のセミナーは
多業種からの参加者が大勢

[H24 年度：青森県八戸市]



北海道全日畜セミナーは
いつも圧倒的な参加人数で開催

[H24 年度：北海道帯広市]



(10) 聴衆を沸かせた多彩な知見と経験豊富な講師のみなさん



(左)
H24 年度 全日畜セミナー
トリゼンフーズ (株)
社長 神津善博 氏



(右)
H25 年度 鹿児島県全日畜
セミナー
参議院議員 野村哲郎 氏



(左)
H25 年度 全日畜セミナー
大相撲 芝田山 親方
(62 代横綱 大乃国)



(右)
H26 年度 青森県ブロック
会議
中畜副会長 菱沼 毅 氏



(左)
H26 年度 全日畜セミナー
北海道 JA 浜中町
組合長 石橋榮紀 氏



(右)
H28 年度 東北全日畜ブロッ
ク会議
元 農林水産事務次官
本川一善 氏



(左)
H29 年度 関東甲越全日畜ブ
ロック会議
(一財) 畜産環境整備機構
副理事長 原田英男 氏



(右)
H30 年度 全日畜セミナー
(公社) 畜産技術協会
会長 南波利昭 氏

(11) 生産現場の声を届ける国会議員への要請行動は活動の柱

◎ 全日畜の初めての議員要請

畜産関係議員の重鎮

(自) 森山 裕 議員

への要請 (議員会館にて)

[H25-01-16]



◎ 自民党本部を訪問して

東北復興本部を預かる

(自) 大島理森 議員

への要請 (自民党本部にて)

[H26-05-27]



◎ 畜産政策の重鎮に

自由民主党 農林部会長

(自) 野村哲郎 議員

への要請 (議員会館にて)

[H30-02-02]



◎ **米政策の重鎮に**

飼料用米政策について

(自) 宮腰光寛 議員

への要請

(大島理森 議員 も同席で)

[H25-10-24]



◎ **首都圏のベテラン議員に**

長く千葉県の畜産業に関わりを持つ

(自) 森 英介 議員

への要請 (議員会館にて)

[H29-09-22]



◎ **現職の防衛大臣にも**

畜産業にも精通の青森県出身議員

(自) 江渡聡徳 議員

への要請 (議員会館にて)

[H26-05-27]



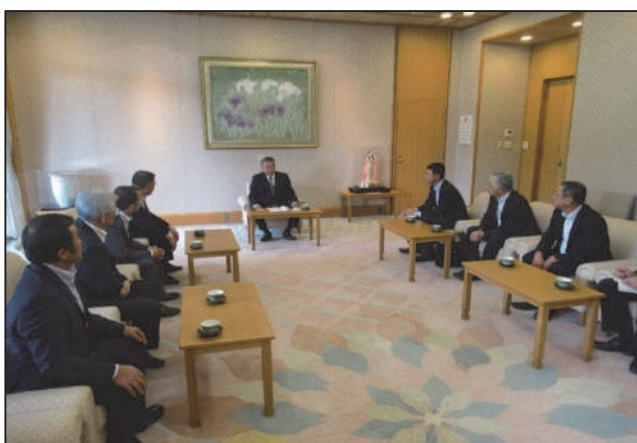
◎ **衆議院の議長公邸にも**

大島議長との貴重な面談

大島理森 衆議院議長

(議長公邸にて)

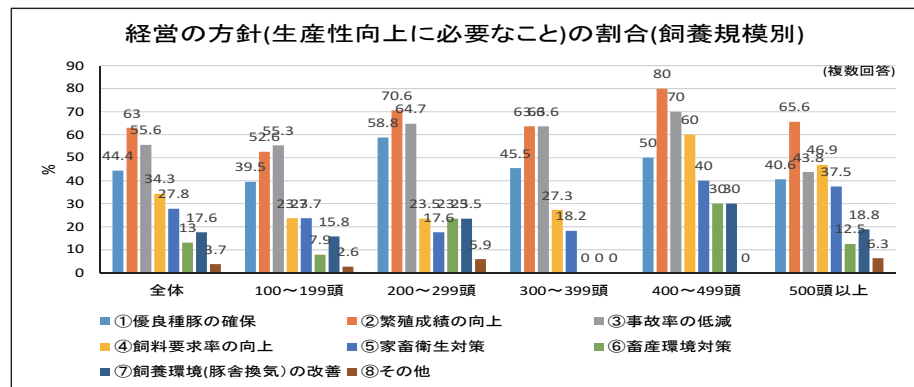
[H29-09-22]



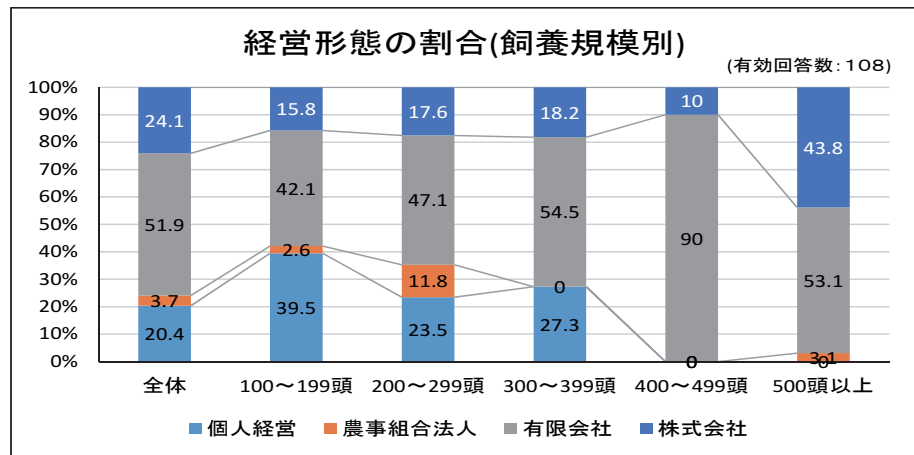
(12) 畜産団体として本格的な調査事業に参加 (alic 事業)

- ◎ 全日畜は、平成 29 年度から畜産振興事業の本格的な調査事業に参加しました。
 - ・事業体 独立行政法人 農畜産業振興機構 (alic)
 - ・事業名 養豚経営安定対策補完事業 (うち、養豚農業実態調査)
 - ・実態調査は、地域の養豚経営者の協力を得てワークショップとアンケートで

調査結果① 経営の方針 (生産性向上に必要なこと)



調査結果② 飼養規模別の経営形態



◎ 検討委員会

調査のアドバイス等は独自に組織した委員会が担います



◎ ワークショップ「愛知会場」から



◎ ワークショップ「鹿児島会場」から

ワークショップの主要テーマは

- ① 労働力確保
- ② 競争力強化

どの会場も、予定時間を超えた議論が続きました



◎ ワークショップ「青森会場」から



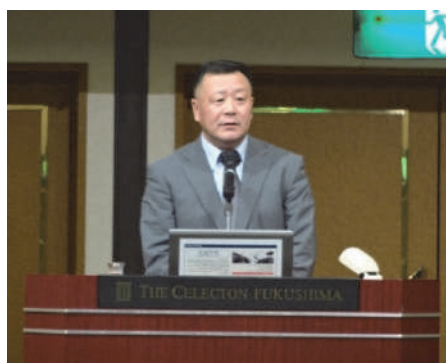
◎ ワークショップ「千葉会場」から



(13) 独自企画で日本中央競馬会畜産振興事業に参加

◎ 全日畜は、JRA 事業の公募に独自企画を提案して、畜産経営者が抱える課題の解消支援に取り組んでいます。

- ・事業体 平成 30 年度日本中央競馬会畜産振興事業（JRA 事業）
- ・事業名 スマート畜産調査普及事業
- ・実施期間 平成 30 年度から 31 年度まで
- ・事業内容 ①シンポジウムの開催、②アンケート調査による実態調査、③先進的な事例調査、④実証調査、⑤マニュアル作成、等



満席のシンポジウム会場で開会の挨拶をする金子理事長



(左上) 講演の講師のみなさん (右上) 意見交換をリードするモデレーター
(下) 感心が高い会場の参加者から引っこりなしの質問が続く



◎ シンポジウムの第三部は現地研修会

先進的なスマート畜産技術の導入前線を視察



◎ その他の活動から

- ・ 発送を待つ、500 通を超えるアンケート調査票の山
- ・ アンケートは「畜産経営者」あて、と「施設機械メーカー」あて



- ・ スマート畜産の実態調査では、各種展示会等に参加してのヒアリング調査も



- ・ 事業は外部の専門家等で構成する二つの委員会がアドバイス
(技術検討委員会から)



(14) 優良な畜産経営事例の啓発活動

全日畜は、日本飼料工業会が参加する、中央畜産会が主催する「全国優良畜産経営管理技術の発表会と表彰事業」を支援して畜産経営の優良事例の啓発活動に取り組んでいます。

(発表会の会場から)



- ◎ 平成 26 年度
最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞

東の匠 SPF 豚研究会
(千葉県・養豚)

代表者 高木敏行 氏



- ◎ 平成 28 年度
最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞

有限会社 高秀牧場
(千葉県・酪農)

代表者 高橋憲二 氏



- ◎ 平成 30 年度
最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞

株式会社 オークコーポレーション
(群馬県・養豚)

代表者 岡部幹雄 氏



(15) 活発な機関会議（理事会、運営委員会、事務局長会議）

① 理事会

畜産をめぐる情勢等、現場目線で
真剣に議論

(H29-09-22)



② 運営委員会

個別課題を掘り下げて検討し、審
議結果を理事会に報告

(H29-08-02)



③ 事務局長会議

地域全日畜・県全日畜と、地域活
動等について連絡調整

(H24-10-12)



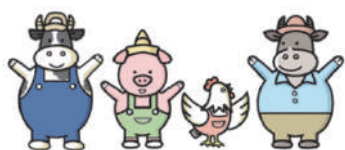
④ 拡大会議

重要課題が発生した場合には、
拡大会議を招集

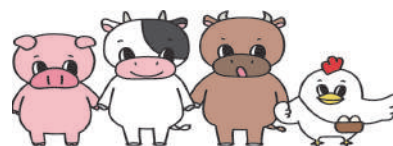
(H26-03-12)



「全日畜」のイメージキャラクター



(初代です)



(二代目です)